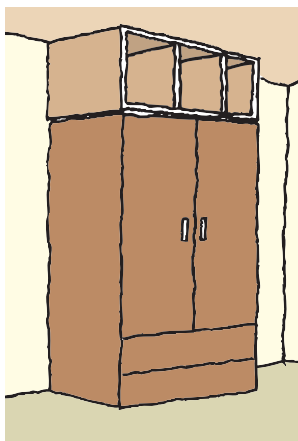


震災から1年… 安全な住まいをつくる

東日本大震災から、1年が経とうとしています。
あの震災で私たちは、いつ襲ってくるかわからない地震の被害を
最小限に食い止めるには、万全の備えが重要だということを学びました。
今回は、家具対策をすることで“逃げ道を確保する方法”を紹介します。

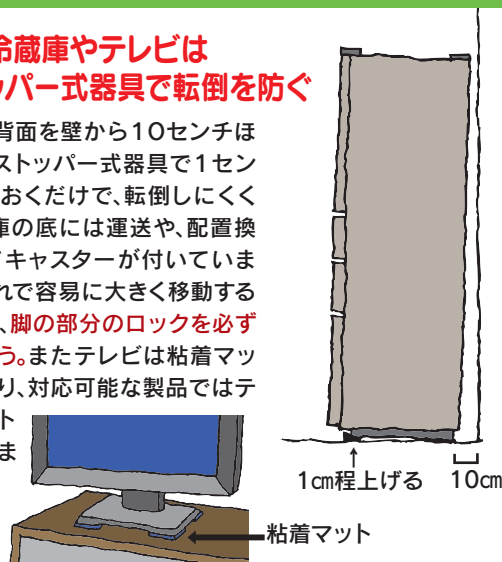
1 収納家具と天井の 隙間をなくす

収納家具などが倒れるのは、家具の底辺の片方が持ち上がるためです。従って家具と天井との間の隙間をなくせば、家具は天井に抑えられて持ち上がることができません。天井と家具の間をぴったり埋める高さの収納ユニット家具を天井との間にきっちり押し込むようにはめ込むと倒れません。市販の横H字型の突っ張りの金物の場合は、この原理を応用していますが、弱い天井板だと突き刺さってしまう場合があるので、家具と同じくらいの大きさの板や合板を挟み、力を分散させるのが理想です。



2 大型冷蔵庫やテレビは ストッパー式器具で転倒を防ぐ

大型冷蔵庫は、背面を壁から10センチほど離し、手前をストッパー式器具で1センチほど高くしておくだけで、転倒しにくくなります。冷蔵庫の底には運送や、配置換えの便を考えてキャスターが付いていますが、地震の揺れで容易に大きく移動することがあるので、脚の部分のロックを必ずしておきましょう。またテレビは粘着マットを下に敷いたり、対応可能な製品ではテレビと台をボルトで結合しておきましょう。

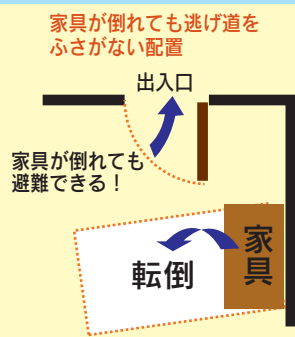


3 ガラスには 飛散防止フィルムを

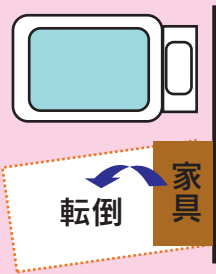
逃げ道を確保する場合、家具の転倒対策と同時に危険なガラスが飛び散らないようにすることも考えなければいけません。扉や棚などがガラスの場合は、飛散防止フィルムを貼って物が倒れたり当たったりしても割れ落ちないようにします。また、扉そのものが開かないようにストッパーをつけることをお勧めします。

家具の配置を 工夫する

寝室や避難経路付近に家具等をおかないことが大事ですが、難しい場合は図のように配置することで、安全を確保できます。



寝ているところに家具が倒れないように配置



※比較的大きめの釘抜きを玄関クローゼットや下駄箱の奥に入れておくと、閉じ込められた時や物に挟まった家族を助ける時に役立ちます。

バックナンバー

『245号賃貸マンションでも出来る地震に備えた部屋づくり』『227号・228号台風・地震対策の基礎講座 備えるシリーズ第1回・第2回』もあわせてご覧ください。

上村建設

<http://www.e-uemura.jp>

住まいの宝箱

<http://www.e-juutaku.com>

賃貸物件をお探しの方は

<http://www.happy-house.co.jp>

★詳しいお問い合わせは各支店まで。電話番号は裏面をご覧ください。